

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	8	学校名	三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	<input checked="" type="checkbox"/> 定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 分
----	---	-----	---------	------	-------	---	---------------------------------------

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 主体的な学びへの変革を通して生徒の学力向上及び進路希望の実現を図る学校							
受動的な学びから主体的・能動的な学びへ変革し、生徒の学習意欲及び学力の向上を図る。	高等学校学力調査の2年生の平均通過率と前年の1年生の平均通過率との差	+0.6%	+1.0%	-6.5%	B	学校平均通過率では昨年度の1年生と今年度の2年生を比較すると大きく低下したが、数学に関しては、昨年度の1年生48.5%から、今年度の2年生 50.0%と目標値に対して 1.0%以上の改善が見られる。	教務
	「自分から進んで勉強する」生徒の割合	29.3%	35.0%	28.8%	B	昨年度実績とほぼ変わらない数値となり、目標値には届かなかったが、「ふだんから計画を立てて勉強に取り組む」生徒の数値が、5%上昇している。	教務
生徒が高いキャリア意識を持ち、進路目標を実現している。	進路希望(3年8月)の達成率および大学・短大の進学率	87% 25%	90% 30%	92.3%	A	担任会で綿密に生徒の希望を把握し、丁寧かつ迅速に対応できた。進路未決定者が10名いるが、年度内には決定する見込みである。	進路
	進路希望調査(1,2年)の進路希望決定率	84%	86%	82%	A	1年生は決定率が73%であるが、2年生は決定率91%と目標値を大きく上回った。	進路

【評価結果の分析】

- (教 務)・「指導と評価の一体化(パフォーマンス課題と評価の方法)」をテーマに、公開研究授業や互見授業を行い、教員の指導力向上を図った。
- ・広島県高等学校学力調査で「授業が分かる」と答えた生徒が、国語では73.1%と依然として高いが、数学では51.8%、英語では41.9%と低い数値となっている。
 - ・「国語、数学、英語の勉強が好き」と答えた生徒の昨年度の数値が、それぞれ50.4%、36.1%、34.2%、であったのに対して、今年度は52.6%、38.8%、32.8%と国語、数学に関しては、微増である。「主体的・能動的な学び」に向けての授業改善は、道半ばであるが、少しずつ成果が出始めているものと考えられる。
- (進路指導)・進路希望達成率は92.3%であり、未決定者が10名いる。2月の試験の結果を待ち、進路先を変更する生徒もいると思われるが、年度内には進路決定できる見込みである。生徒の進路希望を実現することができたのは、3学年会や担任会において生徒の希望を把握し、丁寧かつ迅速な進路指導を行ったことや、生徒の進路希望の変更にも迅速に対応することができたことによるものと考えられる。
- ・就職については求人が引き続き好調なこともあり、学校紹介による一般企業希望者は全員が内定した。担任会でJST(ジョブサポートティーチャー)によるきめ細かな担任へのアドバイスや、生徒への面接及び求人票の提示により、9月の一次試験に約9割(24名)の生徒が応募できたことも良い結果につながった。
 - ・国公立大学を希望する生徒はいたが、出願にまでは至らなかった。1学年から目標にさせ、進路実現に向けた指導を行う必要があった。

【今後の改善方策】

- (教 務) ・生徒の学力・学ぶ意欲を向上させるため、「主体的・能動的な学び」に向けた授業改善を組織的に継続するとともに、生徒に学びの過程と現在の状況を示すことができる「カリキュラムマップ」を作成する。
 - ・基礎学力の向上に向け、教育課程の編成を含め、3年間での学習内容の在り方を再検討する。
 - ・3年間を見通した「総合的な学習の時間」の計画、各教科と連携した指導計画を作成する。
- (進路指導) ・就職希望者は1年生 18名、2年生 28名となっており、1年生の時よりも2年生の時の方が増える傾向にある。普通科の生徒にとって、就職はハードルが高いことを認識させるとともに、1年生の時から、時間を守る、遅刻・欠席をしない、挨拶をする、マナーを守る等の社会人基礎力を養っていく。加えて、朝のSHRにおける10分間学習等を通して基礎学力を身に付けさせていく。また、企業訪問・求人開拓等により企業との連携を密に保ち、求人数を維持する取組を継続して行う。
 - ・早期より進路ガイダンスや進路LHR等を通じて生徒に進路研究をさせ、自らの進路を意識させる。1・2年生には、日常的な進路情報の提供や面談を通じて上級学校進学の特長を理解させ、高い目標を目指す生徒を育成する。3年生は就職、AO入試、推薦入試等、それぞれに応じた対策指導(面接指導、小論文指導、個別学力指導等)を充実させる。
 - ・国公立大学をはじめ高い目標を目指す生徒には、早期より情報収集させ、進路希望の実現に向け計画的に取り組ませる。進学希望者に対しては、大学のオープンキャンパスや公開講座への積極的な参加を促し、高い目標に向かっていく強い意欲を育成していく。教員も大学入試説明会等に主体的に参加し、情報収集に努め、生徒の個別指導に生かしていく。

2 規範意識を醸成し、生徒の自己指導能力の育成を図る学校							
生徒が規範意識、協調性を高め、責任ある行動がとれる。	指導票3枚以上の指導を受けなかった生徒の割合	87%	89%	73%	B	目標値を下回ったが、教員の積極的な指導の表れと考えられる。	生徒指導
	月3回以上の遅刻指導を受けなかった生徒の割合	91%	93%	89%	B	目標値をやや下回った。	生徒指導
生徒が自律的な態度を身に付け、基本的な生活習慣を確立している。	1年間精勤を達成した割合	15%	17%	13%	B	・20名の生徒が精勤である。(1学年:14%) ・20名の生徒が精勤である。(2学年:16%) ・14名の生徒が精勤である。(3学年:10%)	各学年

【評価結果の分析】

- (生徒指導) ・今年度の指導票の発行枚数は、昨年度の約2倍であった。これは、「制服のボタンをとめる」指導など、一定期間に指導するポイントを絞って、指導票を積極的に活用して指導にあたったためである。その結果、多くの生徒状況は改善している。ただし、特定の生徒が繰り返し指導を受けるという課題が残る。
 - ・昨年度まで3年間、遅刻総数は減少してきたが、今年度は昨年比約3割増加した。正当な理由がなく遅刻をした生徒に対して、原則その日の内に遅刻指導を実施してきたが、「体調不良」等を理由とした遅刻が増加している状況がある。下半期に生徒に目標の遅刻数を決めさせる「遅刻防止週間」を設定して取り組んだが、まだ回数が少なく効果があったかどうかの検証はできていない。また特定の生徒が遅刻を繰り返す実態も課題である。
- (1 学 年) ・各HRや学年集会等において基本的な生活習慣の確立に向けた指導を継続してきたが、体調不良等の理由により欠席した生徒が多い。遅刻者に対しては、無断遅刻に対する放課後の遅刻指導を計画的に取り組み、遅刻防止に努めた。
- (2 学 年) ・担任を中心としてホームルームにおいて、進路実現のために基本的な生活習慣を継続することの大切さを伝え続けている。無断遅刻者への放課後指導を学年会全体で計画的に取り組んだ。現時点で精勤賞候補者が20名で概ね目標値を達成できている。
- (3 学 年) ・在籍142名中、1年間の精勤が14名であった。精勤の生徒割合は、2年次の割合とほぼ同じであるが、遅刻が多いという課題を克服できなかった。

【今後の改善方策】

- (生徒指導) ・指導票を積極的に活用しての指導によって、一定の効果が見られたので、今後も継続して粘り強く指導していく。
 - ・生徒に目標を決めさせる「遅刻防止週間」の取り組みは継続して、その効果を検証する必要がある。生徒が自ら目標を決めて、その実現に向けて協力し達成感を味わう、というような取組が望まれる。また、「遅刻指導」の対象になるかどうかの基準の見直しや放課後の「遅刻指導」の方法等も検討する必要がある。
- (1 学 年) ・日々の生活規律を正すための指導(服装・遅刻・授業規律など)を粘り強く継続して行うとともに、目標を持たせることで学校へ来る意欲を向上させ、遅刻・欠席数を減少させる。
- (2 学 年) ・精勤を継続している生徒が多い一方で、特定の生徒が遅刻を繰り返している。保護者と連携して基本的な生活習慣の確立を目指していく。基礎学力の充実のために、授業規律の確保と遅刻指導・服装指導等を学年会全体で継続していく。

(3 学 年)・精勤・皆勤の生徒の努力を誉め称えとともに、遅刻を繰り返す生徒に対し、規則正しい生活リズムを確立することが卒業後の生活でもすべての基本となることを粘り強く伝えていく。出欠状況、遅刻・早退の有無が進路決定に大きく影響することを粘り強く伝えていく。

3 部活動及び特別活動を通して地域の信頼と期待に応える学校							
質の高いスピーディーな情報発信をし、地域との信頼を深める。	「東高便り」の発行及びHP更新で地域に発信した回数	40	42	94	A	東高便りは予定通り発行した。HP更新は目標値を大きく超えて達成した。	総務
地域と積極的に連携することで、地域の期待に応える。	ボランティア活動に参加したことがある生徒の割合	新規	50%	46%	A	年2回の校内外清掃ボランティア活動に参加した生徒数は実数で190人を超えた。	総務 (生徒指導)
意欲的に学校生活を送らせるために、課外活動、特に部活動に積極的に取り組ませる。	部活動の加入率	65%	70%	68%	A	昨年度の数値を上回ったうえ、目標をほぼ達成した。	生徒指導

【評価結果の分析】

(総 務)・「東高便り」は計画通り年8回発行できている。また、HP更新については、「ホームページビルダー」を導入したことにより、効率が向上し、例年にない更新回数を達成した。校外清掃ボランティア活動については、三原市立第二中学校の生徒との協働活動を取り入れ、大々的な清掃活動ができた。

(生徒指導)・年度当初の部活動加入率は、1年74%、2年81%、3年50%であり、全学年では68%(昨年比+2%)で目標値に近い数値になっている。新入生への入部勧誘活動については、合格者説明会や入学式の日から各部が積極的に行い、部活動集会や部活動体験も新入生オリエンテーションの期間に実施するなど、早期の取り組みを行った。

・情報発信の面では、学校のフェンスへの横断幕や「東校便り」等、他の分掌に頼っている面もある。清掃ボランティア活動ややさ祭りなどの行事に部活動単位での参加はあるが、部活動をアピールするまでには至っていない。HPの活用については、総務部と連携して、部活動のページを更新しやすくなったので、今後の積極的な活用に期待できる。

【今後の改善方策】

(総 務)・今後もHP更新については、行事ごとに更新して、迅速な情報発信を行う。校内外清掃ボランティア活動については、整美委員会を中心に声かけを行い、参加者を増加させる。3年計画で、在学中に1度は校内外清掃ボランティア活動に参加した生徒が80%以上になるようにする。また、清掃態度や方法について改善策を練る。

(生徒指導)・部活動への加入の働きかけについては、とりわけ新入生に対して、引き続き入学後の早い時期から取り組む体制を確立する。
・生徒会活動(特に部活動)に関する情報発信を、HP等を活用して積極的に行う。

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	8	学校名	三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	---	-----	---------	------	-------	---	---

1 評価結果の分析

(1) 成果

- ・「指標と評価の一体化(パフォーマンス課題と評価の方法)」をテーマに、公開研究授業や互見授業を行い、教員の指導力向上を図った。アクションプラン会議を中心に授業改善を推進した結果、広島県高等学校学力調査において「国語・数学・英語の勉強が好き」と答えた生徒が、国語は50.4%から52.6%、数学は36.1%から38.8%と増加した。「主体的・能動的な学び」に向けての授業改善の取組の成果が、少しずつではあるが出始めていると考えられる。
- ・進路希望達成率は92.3%と目標値を上回ることができた。担任会や学年会で生徒の進路希望や学習状況等を的確に把握し、個々に応じたきめ細やかな指導を行ったことや、進路希望の変更にも迅速に対応し、適切な指導を行うことができたことによると考えられる。2月時点で進路未決定者が10名いるが、試験の結果待ちによるものであり、年度内には進路先を決定できる見込みである。
- ・就職については求人倍率が引き続き好調なこともあり、学校紹介による一般企業希望者は全員が内定した。担任会でJST(ジョブサポートティーチャー)によるきめ細かな担任へのアドバイスや、生徒への面接及び求人票の提示により、9月の一次試験に約9割(24名)の生徒が応募できたことも良い結果につながった。
- ・「東高便り」は計画通り年8回発行できている。また、ホームページの更新については、「ホームページビルダー」を導入したことにより、効率が向上し、例年にない更新回数を達成した。校外清掃ボランティア活動については、三原市立第二中学校の生徒との協働活動を取り入れ、大々的な清掃活動ができた。
- ・今年度の指導票の発行枚数は、昨年度の約2倍であった。これは、「制服のボタンをとめる」指導など、一定期間に指導するポイントを絞って、指導票を積極的に活用して指導にあたったためである。その結果、多くの生徒状況は改善している。
- ・年度当初の部活動加入率は、1年74%、2年81%、3年50%であり、全学年では68%(昨年比+2%)で目標値に近い数値になっている。新入生への入部勧誘活動については、合格者説明会や入学式の日から各部が積極的に行い、部活動集会や部活動体験も新入生オリエンテーションの期間に実施するなど、早期の取組を行うことができた。

(2) 課題

- ・広島県高等学校学力調査において「授業が分かる」と答えた生徒が、国語では73.1%と依然として高いが、数学は51.8%、英語は41.9%と低い数値となっており、今後も学習者を基点にしたわかる喜びを実感できる授業づくりに取り組んでいくことが課題である。
- ・国公立大学を希望する生徒がいたが、出願にまで至らなかった。1年次から進路ガイダンスや進路LHR等を通じて、生徒に自らの生き方や将来の職業観などを考えさせるキャリア教育を推し進めることで、生徒に高い目標設定をさせ、自らの目標の実現に向け、果敢にチャレンジしようとする意欲を育成していかなければならない。
- ・昨年度まで3年間、遅刻総数は減少してきたが、今年度は昨年比約3割増加した。正当な理由がなく遅刻をした生徒に対して、原則その日の内に遅刻指導を実施してきたが、「体調不良」等を理由とした遅刻が増加している状況がある。下半期に、生徒に目標の遅刻数を決めさせる「遅刻防止週間」を設定して取り組んだが、まだ回数が少なく効果があったかどうかの検証ができていない。また特定の生徒が遅刻を繰り返す実態も課題として残る。
- ・部活動の情報発信の面では、フェンスへの横断幕の掲示や「東高便り」等、他の分掌に頼っている一面もある。また、清掃ボランティア活動ややっさ祭り等の校外活動に部活動単位での参加はあるが、一部の部活動の参加になっており、学校全体で部活動をアピールする場にはなっていない。

2 今後の改善方策

- ・生徒の学力・学ぶ意欲を向上させるため、「主体的・能動的な学び」に向けた授業改善を組織的に継続するとともに、生徒に学びの過程と現在の状況を示すことができる「カリキュラム・マップ」を作成する。
- ・基礎学力の向上に向け、教育課程の編成を含め、3年間での学習内容の在り方を検討する。また、3年間を見通した「総合的な学習の時間」の計画、各教科と連携した指導計画を作成する。
- ・進路ガイダンスや進路LHR等を通じて生徒に進路研究をさせ、早い時期から自らの進路を意識させる。1・2年生には、日常的な進路情報の提供や面談を通じて進路希望を明確にし、高い目標設定をさせることで、主体的に学習活動に取り組む生徒を育成する。3年生は就職、AO入試、推薦入試等、それぞれに応じた対策指導(面接指導、小論文指導、個別学力指導等)を充実させる。
- ・国公立大学をはじめ高い目標を目指す生徒には、早期より情報収集させ、進路希望の実現に向け計画的に取り組ませる。進学希望者に対しては、大学のオープンキャンパスや公開講座への積極的な参加を促し、高い目標に向かっていく強い意欲を育成していく。教員も大学入試説明会等に主体的に参加し、情報収集に努め、生徒の個別指導に生かしていく。
- ・就職希望者には、学力の向上はもちろんのこと、時間を守る、遅刻・欠席をしない、挨拶をする、マナーを守るなどといった社会人基礎力の必要性を理解させる。

- ・ホームページの更新については、行事ごとに更新するなど、迅速な情報発信を行う。校内外清掃ボランティア活動については、3年間のうち1度は校内外清掃ボランティア活動に参加した生徒の割合が80%以上になるようにする。また、校外での清掃ボランティア活動については、実施時期や清掃区域等を見直し、本校生徒の活動を地域の方たちに広く知ってもらえる機会とする。
- ・指導票を積極的に活用しての指導によって、一定の効果が見られたので、今後も継続して粘り強く指導していく。
- ・生徒に目標を決めさせる「遅刻防止週間」の取り組みは継続して、その効果を検証する必要がある。生徒が自ら目標を決めて、その実現に向けて協力し達成感を味わう、というような取組が望まれる。また、「遅刻指導」の対象になるかどうかの基準の見直しや放課後の「遅刻指導」の方法等も検討する必要がある。
- ・部活動への加入の働きかけについては、引き続き入学後の早い時期から取り組む体制を確立する。また、加入率とともに部活動継続率も向上させていく。
- ・生徒の活動(部活動やボランティア活動等)に関する情報を、総務部と連携し、ホームページを活用して積極的に発信していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・学校関係者評価委員からは、魅力ある学校づくりに向けて適切に取り組んでいるという評価であったが、その取組内容をもっと外部に情報発信することの必要性を指摘された。来年度は、本校で利用している保護者向けメール配信を使って、ホームページの更新やインフルエンザ情報等、タイムリーな話題を提供し、学校の状況を保護者に理解してもらい、学校への協力体制を推進していく。また、進路先と生徒の成績推移をデータベース化し、オープンスクールや中学校説明会等で情報提供することで、学習指導、生徒指導を通じて学力向上についてきめ細やかな指導を行っていることを周知し、本校の強みをアピールし、本校の魅力に対する理解を促進していく。
- ・生徒の進路希望を実現するために、教科・科目の学習内容によって、どのような力を身に付けることができるのかが生徒自身が理解し実感できるよう、カリキュラムマップを作成し、活用していく。また、生徒指導部だけでなく、進路指導部からも、遅刻・欠席が多い場合は進路実現に大きな影響があることを早い時期から生徒に伝えることで、基本的な生活習慣の確立に向け、学校全体で取組を継続していく。
- ・生徒指導に関しては、生徒の活動をしっかりと把握し、少しの改善点があった場合には、生徒の活動を褒めることによって、生徒の自己肯定感を高めていく取組を進めていく。
- ・部活動を活性化し、生徒の人的成長を促進することによって、地域社会に信頼される生徒を育むと同時に、将来、地域社会のリーダーとなる人物を輩出していく。

平成 29 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 30 年 3 月 日

校番	8	学校名	三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	---	-----	---------	------	-------	---	---

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実態を把握し, 目標が設定されている。 ・課題の解決に向けた目標や計画が適切に設定されている。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が明確にされている。 ・目標値に届いていない項目があるが, これまでの学習活動や部活動等での取組状況には問題はないと思われる。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的なことはわかるが, 個々に目標を自覚させ, 到達指針と並行して達成満足度をあげさせることで, 変化を認めてやる。 ・魅力ある学校づくりの取組状況を情報発信していただきたい。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力と規範意識が課題であることがよくわかる。 ・適切に分析されており, 今後の改善方策も具体的で, 課題解決に向けた取組が期待できる。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力と規範意識が課題であることがよくわかる。 ・本校の強みを積極的にアピールする必要がある。中学生や保護者等に情報発信することで学校の魅力をアピールできる。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を活性化し, 人間的成長から信頼される生徒像を育てほしい。 ・各部の尽力は認めます。もう少し好結果を期待したい。 ・生徒の良い部分をもっと伸ばしてやることで, 自分に自信を持たせてやり, 校内外で積極的に活動する生徒を育成してください。